

2006 年 ICU 夏期日本語教育 教 務 報 告

教務主任
半田 淳子

1. 日 程

a. 夏期日本語教育開始までのスケジュール (2006 年 3 月以降)

- 2006 年 3 月 願書締切 選考開始 ラボ助手・教務助手の募集
- 4 月 合格通知の発送 セクション数、コース担当を決定 (仮)
- 5 月 担当コース、使用教科書を講師に連絡。シラバスの送付
最終的な応募者数の確定。担当講師の確定と連絡
教務助手、ラボ助手の承認
会話ボランティアの募集開始
- 6 月 PT の作成と採点を JLP に依頼
凡人社に夏期の出張販売を依頼
東京カリフォルニア大学センター、学生サービス部、並びにロータリー財団
関係者との顔合わせ
ホームステイ先との顔合わせ (6 月 17 日)
ラボ助手オリエンテーション (ILC、図書館)
PT 準備 (ラボ助手、教務助手)
講師室・教材準備室の設営 (ラボ助手、教務助手)

b. 夏期日本語教育期間中および期間後のスケジュール

7 月 4 日 (火)	10:00-12:00	ヘッド会議
	13:30-15:30	全体講師会
	15:30-16:00	講師向け学内オリエンテーション
7 月 6 日 (木)	9:15-12:00	PT 実施
	13:15-15:00	歓迎会 (於食堂)
	16:00-18:30	判定会議
7 月 7 日 (金)	8:40-	PT 結果発表
	8:50-11:20	作文テスト・インタビューテスト
	11:30-	授業開始 (オリエンテーション)
	12:00-	凡人社テキスト販売 (本館 2 階ロビー)
7 月 10 日 (月)	13:30-15:30	ヘッド会議 (H251) クラス移動状況報告
	12:40-	凡人社テキスト販売

7月11日(火)		コース変更最終日
7月12日(水)	13:40-14:10	全体講師会 授業見学開始
7月14日(金)	13:00-15:00	講師懇談会(於アラムナイハウス)
7月19日(水)	13:40-14:10	全体講師会
7月26日(水)	12:45- 13:40-14:10	写真撮影会 全体講師会
8月2日(水)	13:40-14:10	全体講師会
8月9日(水)	13:40-14:10	全体講師会
8月11日(金)		静岡県立大学より授業見学
8月14日(月)		図書&図書カード返却
8月16日(水)	8:40- 13:30-15:30 15:30-	期末試験実施 歓送会(於食堂) 成績提出 講師室、教材準備室撤収準備
8月31日(木)		コース報告書の提出
9月		修了書の発送 2006年度夏期日本語教育反省会

2. コースについて

a. 授業時間

授業時間割は従来通り、1コマを70分とし、週5日1日3コマであり、合計で6週間90コマ(105時間)の授業を行なった。また、今年度は、文化プログラムのレクチャー(月曜日13:30~15:30)の受講を必修とし、学生は5回のレクチャーの中から2回を選択し出席した。なお、休み時間は昨年度を踏襲し、1限目と2限目の間に休憩時間を20分設けた。朝食を取らずに授業に来る学生が少なくなく、この時間帯はいつも文化プログラムのラウンジが混雑していた。

1限	8:40-9:50
2限	10:10-11:20
3限	11:30-12:40
昼休み	(60分)
個別指導時間帯	13:40-14:50

b. コース編集と担当講師、受講生数

コース	セクション	担当講師（＊はヘッド、敬称略）	学生数
C1（初級1）	A	＊今井陽子・保坂明香	10
	B	＊数野恵理・三上京子	8
C2（初級2）		＊北村愛子・梅澤薫	11
C3（初級3）	A	＊石川素子・小松満帆	10
	B	＊開めぐみ・待鳥直子	12
C4（中級1）	A	＊濱家優子・萩原章子	13
	B	＊永富あゆみ・山木戸浩子	12
C5（中級2）	A	＊松本ゆみ・須田敦子	10
	B	＊中川路子・高宮優美	9
C6（中級3）		＊黒川直子・小野純	14
C7（上級）		＊川上麻理・鈴木貴美子	4
7 コース 11 セクション		22 名	113

学生の日本語レベルを事前に判定した結果、C8に該当する学生がいなかったため、C8はキャンセルした。また、例年とは異なり、C1に該当する学生が多いと予想され、結局、予想通りC1を2セクションにすることになった。当初は、C7が10名を超えると思われたが、PTの結果は予想より少なかった。日本語の学習歴が長く、海外では上級のクラスを取っていても、ICUのPTの結果、上級にプレイスされる学生は少ないということであろう。各コースの授業内容に関しては、後の報告書を参照されたい。

また、他大学で、どこまで日本語を勉強したら、サマーコースのどのレベルに該当するのかを把握するのは難しい。今回、学生が使用していた代表的な日本語のテキストは『ようこそ』『げんき』『なかま』の3冊であったが、文法項目に関して『ICUの日本語』と比較した表を（資料1）に載せたので、参考にしていただきたい。因みに、『ICUの日本語』は初級が3冊構成で、1巻から3巻までがC1からC3レベルに対応している。従って、C2は1巻目の学習項目が修了した学生を受け入れているということになる。今回のPTの結果から、『ICUの日本語』以外の教科書との関連を簡単に述べておくと、C2にプレイスされた学生は、『なかま』『げんき』『ようこそ』のいずれかの第1巻を修了したレベルで、C3は、上記のテキストの第2巻の後半を学習中かそれらを修了したレベルの学生がプレイスされた。C4以降は中級レベルだが、C4にプレイスされた学生は、上記のテキストを修了し、既に中級の日本語のクラスを受講している学生も少なくなかった。因みに、『ICUの日本語』を第3巻まで修了すると、日本語能力試験の3級で扱う245字が書けるようになり、その他に155字が読めるようになる。いずれにしても、中級以降は、読解の内容も複雑になり、長文になるので、より高度な漢字や語彙の習得が必要になる。

また、学習時間数に関して言及しておく、通常のICUのJLP (Japanese Language Program) の場合、各学期は10週間で、1週間は10コマ、1コマは70分の授業である。つまり、7,000分

(約 116 時間) の JLP の授業を修了した学生が、次のレベルに進むことができるということである。これは飽くまで目安であるが、海外の大学で 1 年間日本語の勉強をした程度では、C2 から始めるのが妥当であると思われる。2 年間勉強しても C3 のレベルで、直ちに C4 に進むことは難しいと言わざるを得ない。

c. 使用教材

主教材として、初級は『ICU の日本語』、C4 は『日本語中級 J301』、C5 と C6 では『日本語中級 J501』、C7 ではコピー教材と『どんな時にどう使う日本語表現文型 500』を使用した。中級の漢字教材に関しては、J301 及び J501 をもとに ICU が作成したものを使用した。これ以外の教材については、各コースの報告を参考にされたい。教科書販売は日本語関係書籍の販売会社に出張販売を委託した。販売日以外の日、教務で教科書を預かり販売を代行した。

d. 個別指導

午後の個別指導の時間は、作文の添削など、個々の学生のニーズに応じた細かな指導ができるので、講師にも学生にも好評であった。

e. 特別活動報告

教科書を中心とした授業内容に加えて、今年も各コース講師による多彩な教育活動が行なわれた。こうした活動は、クラスに活気を与えるだけでなく、学習者のモチベーションを高め、他コースの学生にも大きな刺激を与えたようである。そのうちの一つを「特別活動報告」(小松満帆)として載せたので参考にさせていただきたい。

3. 受講生

今年度は、243 名(一般応募 196 名、プログラムの学生 47 名)の応募があった。プログラムの学生とは、カリフォルニア大学、ペンシルバニア大学、ポモナ大学からの交換留学生と、ロータリー財団奨学生である平和研究の大学院生である。当初 125 名を合格(保留を 13 名)としたが、辞退者があり、最終的には 113 名を受け入れることになった。内訳は、一般応募学生が 69 名、プログラムの学生が 43 名、本学教員が 1 名である。今回、辞退する学生が予想より多かったため、今後は保留を少し多めに取っても良いかもしれない。

春学期からの継続の学生は、書類審査も PT も免除になるのだが、コース開始前に学生の継続の意思や学習態度等を確認した方が賢明である。また、コースの途中で授業を放棄したり、帰国したりする学生が数名いた。特に、単位が必要でない学生は集中力が途切れがちである。学生を選別する段階で、学習動機や背景により注意を払うことが必要かもしれない。

4. 助手

学生のスクリーニングと並行して、3 月に、教務助手・ラボ助手・文化プログラム助手も募集をし、希望者を随時面接した。教務助手は日本語教授法の修了者で日本語教師志望の者、ラボ助

手はコンピュータ等の機器の扱いに慣れている者、文化プログラム助手は国際交流に関心があることを主な条件として採用した。今年度は4年生が中心だったので、就職活動などもあり、結局多めに採用し、シフトを組んで出勤してもらうことにした。教務助手を3名、ラボ助手を5名採用したが、常時勤務していたのは教務が2名、ラボが4名であった。なお、今夏は、寮のヘルパーの学生は必要なかった。

5. プレースメントテスト (PT) と学生のコース移動

PTは初日に3種類のテスト(聴解テスト、漢字テスト、総合テスト)を行ない、学生をコースに振り分けた。PT当日は、交通機関の遅延もなく、遅刻者は1名(バスを乗り間違えたため)のみであった。翌日は、各クラスで作文テスト及びインタビューを行ない、最終的な受講コースを決定した。初日のPTの結果で指定されたコースが自分に合わないと考えてコースを移動した学生(全体の約1割)は以下の通りである。

	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	
判定通り	18人	9	18	23	15	12	2	97
上のレベルからの移動	0	1	2	0	1	1	NA	5
下のレベルからの移動	NA	1	2	2	3	1	2	8
計	18	11	22	25	19	14	4	113

4時からの判定会議は大きな変更もなく、短時間に終わった。2時からのプレ会議で、JLPの中でクラス分けの案を出し、またその理由も書いておく時間が短縮できて良い。学生のstatement of purposeを読んでいて、ICUのサマーコースに対する期待の大きさと使命というものを感じた。応募者の中にはリピーターやICUファミリー、他大学のサマーコースに参加したが不満だったという者もいた。

今年は、昨年は行なわなかったAural Testを行なったが、Aural Testを行なう場合には遅刻者への対応に注意が必要である。

6. 教務・学習環境および視聴覚教材など

a. 講師室

講師室(本館202)の環境は、例年通りとした。各セクションに長机2本と椅子4脚、教務主任机1、事務助手机1、電話3台(外線用2台、内線専用1台)、コンピュータとプリンター各1台、応接セット、冷蔵庫、食器棚、書棚、コピー機1台、絵カードなどのキャビネット2、カッター用の机1を設置した。

夜は施錠し、鍵は教務主任が管理したほか、鍵当番(教務助手とラボ助手)を決め、翌朝の教室の鍵開けと保安室からの新聞の受け取りを担当した。本館は午後6時に施錠されるため、講師

には本館東口の鍵を全員に貸し出した。

b. 教材準備室

教材準備室（本館 203）を講師室の隣に設営した。準備・設置した機材は以下の通りである。

機材	借用先と設置者など
コンピュータ（Windows）4 台	リース。ILC で設置。机は管財の業者が設置 （すべてインターネットに接続）
プリンター 1 台	同上
コピー 1 台	リース。業者が設置
ビデオデッキとモニター 2 セット	ILC が設置
CD ラジカセ 4 台	ラボ助手が移動
オーディオカセットデッキ 5 台	JLP、センターより、ラボ助手が移動
ビデオテープキャビネット	JLP（ビデオを含む）より、管財課が移動
オーディオキャビネット	JLP（音声テープを含む）より、管財課が移動
作業机、応接セット	管財課倉庫から移動
書棚	管財課倉庫から移動

オーディオカセットデッキは、使用頻度からして、あと 2～3 台は用意しても良かった。今年は教材準備室に用意されたコンピュータの台数が不足していたので、I-131 を借り、午後は先生方用に開放したが、場所が離れているせいか、利用は少なかった。また、個人のコンピュータを持ってきた先生も多かった。最終日の先生方からのアンケートを見ると、使用できるコンピュータの台数を増やして欲しかったとの意見が多数あった。

海の日には図書館が閉まっていたので、学生はプリンターが使えず、I-131 のものを使用してもらった。コピーに関してだが、20 枚以上の場合、助手が受け付け、ERBII の印刷機を使用して印刷した。今後、印刷機を夏の間だけ教材準備室に設置することができれば、より少ない枚数でも使えてコピー代の節約になるし、また、講師はその都度助手に依頼しなくても印刷できるので便利である。

c. 教室

本館東棟の 1 階から 3 階までの 11 教室を使用した。そのほかに、大教室（H213）を文化プログラム用に使用した。助手の控え室として H-214、会話ボランティアの待合室として H-251 を借りたのは良かった。特に会話ボランティアの待合室は、30 分以上前に来ているボランティアもいるので、絶対に必要である。また、例年通り、I-103 と I-104 を聴解授業のために借りた。コンピュータを使つての作文授業などには、I-131 を使用した。この部屋は、MMR が使用できない時に便利である。ILC のスタジオも借りたが、最後の発表などで使用するクラスが 1 クラスあったの

みである。

d. 自習およびIT環境

学生がインターネットとワープロを利用するためのコンピュータは、オスマー図書館の2階スタディーエリアのものを使用し、ラボ助手が1時から4時まで常駐した。プリンターはサマーコース学生用のものを1台確保した。学生の便宜を図って、期末テスト前の4日間は、プリンターの使用を5時までに延長した。グループ学習室1も、通常と同じ方法で利用可能であったが、利用する学生は皆無であった。

I-104 をオーディオテープ並びにビデオ視聴のための自習室として開放した。利用者が若干名いたが、その場合のみラボ助手が待機した。『ICUの日本語』『日本語中級 J301』『日本語中級 J501』の音声テープに、JLPのサイトからアクセスできることを伝えた。その他に、『ICUの日本語』の読みの教材の自習用に、ラボ助手が協力して音声テープを作成し、貸し出した。音声 CD や MD も貸し出したが、MD に関しては希望者はいなかった。

e. 視聴覚教材・機材

視聴覚教材の授業のための貸し出しは、教材準備室で講師が各自で行なった。機材のうち、オーディオテープレコーダーや CD ラジカセは、講師室で講師が各自で行なった。それ以外の視聴覚教材（OHP、コンピュータモニター投影用プロジェクター、8ミリカメラ）は、OHP は ILC の担当スタッフ小島氏（H-169）に依頼し、プロジェクターや8ミリカメラはラボ助手が保管してある I-102 より運んで使用した。いずれの場合も、機材の予約はラボ助手が窓口になっていた。

7. 会話ボランティア

例年通り、ICU の4月本科生および一般社会人に会話ボランティアを募り、協力してもらった。会話ボランティアの役割は、日本語の授業に参加し、留学生がロールプレイをする相手になったり、スピーチを聞き質問したり、あるテーマに関して意見交換をしたりすることである。一般社会人による会話ボランティアとは、津田日本語教育センター（財団法人津田塾会）と MISHOP（財団法人三鷹国際交流協会）の日本語教授法コースの受講者である。ボランティアの登録は、ICU 生が 95 名、社会人が 15 名であったが、結局、参加したのは ICU 生が 75 名、社会人が 12 名であった。毎回参加してくれた ICU 生も 5 名ほどいた。

アンケートによると、参加者の満足度は非常に高いものであったし、留学生の側も同様であった。会話ボランティアの中には、英語を使わず簡単な日本語で説明することに難しさを感じた人も多かったようだ。

ビジターセッションの時間は、各コースで2回を目安とし、授業後に昼食を食べながら交流してもらう意味でも、3限目に設定してもらうようにした。そのため、ボランティアの遅刻がほとんどなかった。また、欠席の場合も、多くの場合、事前に連絡があった。とはいえ、登録から実施までは数ヶ月があるので、予定が変わってしまうことも少なくなく、特に8月のお盆のころはビジターセッションを避けた方がよい。その時期は、会話ボランティアもキャンセルする人が多

い。特に、学生の場合は、予定を変えることが多く、事前にカレンダーに参加可能日程を記入してもらっても、それが役に立たないことが多かった。今後は、名前とメールだけのリストを作成し、ビジターセッションの日程が決まってから都合を聞くだけでも十分かもしれない。逆に社会人の場合は、来られる曜日が限られていたので、カレンダーは有効であった。ビジターセッションの日程をできるだけ早く知らせたいとの要望も多く寄せられたが、どこまで可能かは疑問が残るところである。詳しくは、巻末の会話ボランティアへのアンケート調査の結果（資料2）を参照されたい。

8. 今後の課題と連絡事項

次年度に向けての課題としては、以下のような事柄が挙げられる。

- (1) 春学期からの継続の学生で、PT 免除の学生は、サマーコースの開始前に、旅行をしたり一時帰国したりするので、いつまでに戻ってくれば良いか等、UC センターと協力して別途連絡が必要である。
- (2) 個人情報に関して、学生の情報がネット上に流出しないように、全体講師会で注意したが、来年度も同じような説明が必要である。
- (3) 災害時の学生の誘導について、マニュアルを作成したので、来年度も先生方に配布した方が良い。因みに、避難場所は本館前の芝生である。
- (4) 授業中に発作を起こして救急車で病院に運ばれた学生がいたが、教師や学生が動揺しないように、そうした際の対応に関しても注意が必要である。
- (5) 作文の課題提出の際、インターネットで見つけた記事をそのまま使用しようとした学生がいたが、W3 にも載っている剽窃に関するルール等を学生に事前に確認させた方が良い。
- (6) 秋学期以降も残る学生には、J コースか I コースかの希望を聞き、また、9 月の JLP 説明会にも必ず出席するように徹底させたい。
- (7) PT の試験会場の設営は、当日の朝にした方がいい。前日に張り紙をしたり、黒板に予定を書いておいたりしても、取り外されたり、消されたりしていることがあるので注意が必要である。
- (8) 期末テストの日は、送別会もあるので、忙しい。期末テストを前日にすることは可能なのか、検討が必要である。今年度は、全てのコースの成績が出終わったのは、6 時過ぎであった。
- (9) 勤務時間がはっきりしないので、決めて欲しいという意見もあった。勤務形態が講師間で不公平にならないようにしたい。
- (10) 先生方に提出してもらった学生の名簿や、シラバス、予定表は書き方がバラバラだったので、今後は統一した書式を渡した方が良いかもしれない。
- (11) 送別会の出し物が充実していた。学生も教師も例年楽しみにしているようだが、授業中に練習させないことや、飽くまでオプションであることを徹底させたい。

(資料1)『げんき』『なかま』及び『ICUの日本語』(Vol.1)の各課の文法項目一覧

『げんき』 I

1 課 新しいともだち	XはYです。疑問文。いま、なんじですか。N1のN2。 数字、時間、年。
2 課 かいもの	これ、それ、あれ、どれ。[この、その、あの、どの、だれの] + N。 ここ、そこ、あそこ、どこ。NもXです。Nじゃありません。～ね。 ～よ。教室。
3 課 デートの約束	Ru-, U-Verb、不規則動詞。助詞 [で、に、へ、を、は] ～ませんか。語順。[毎日、よく、ときどき] ～ます。[ぜんぜん・あまり]] ～ません。
4 課 初めてのデート	Xがあります／います。～ました／ませんでした。でした／じゃありません でした。AとB。〇〇さんと～。〇〇さんも～。〇〇さんはXXも ～。位置。日、週、月、年。
5 課 沖縄旅行	い形容詞+な形容詞。XはYが [好き／きれい] です。 ～ましょう／～ましょうか。とても、ちょっと。郵便局で。写真屋で。
6 課 ロバートさんの一日	て - Form。～てください。～てもいいです／～てはいけません。 S1。S2から (理由)。～ましょうか。道を聞く／教える。
7 課 家族の写真	～ている。〇〇さん は Xが～です。V stem+に [行く、来る、帰 る]。人を数える。文をつなぐ [て - Form] 形容詞／N+です。体の 部分と家族。
8 課 バーベキュー	Short forms & Long forms 現在形 (肯・否) [V・Adj・N+です] ～ないでください。 Vのが好きです。が (だれが〇〇ですか)。何か&何も。
9 課 かぶき	Short forms の過去形 行く→行った。 いい→よかった、よくなかつ た。～と言っていました。Qualifiers [Adj, V] +人。まだ～ていませ ん。 S1から、S2。色。
10 課 冬休みの予定	比較 [AのほうがBより～／AとBとどっちのほうが～。〇〇の中で、 Aがいちばん～。Adj／N+→Adj+の。N1のN2→N1の～。V (現・ Short) つもりだ。Adj+なる。 どこかに／どこにも。で (手段・道具)。
11 課 休みのあと	～たい。～たり～たりする。～ことがある。noun A や noun B。 日本語のクラスで。
12 課 病気	～んです。～すぎる。～ほうがいいです。～ので、～。～なくちゃいけ ません。～でしょう。健康と病気。

『なかま』 1

1. イントロ	ひらがなの練習と例文
2. あいさつと じこしょうかい	〇〇は N です、じゃありません、じゃないです、ですか。はい・ええ／いいえ。そうです。名前・国籍・ジェンダー・専攻。なんですか。なんねんせいですか。どちらからいらっしゃいましたか。と、も。
3. にほんのうち	Adj+N. この、その、あの、どの。ここ、そこ、あそこ。～に～があります・います。なか、そと、となり、よこ、ちかく、うしろ、まえ、うえ、した、みぎがわ、ひだりがわ。～よ、～ね。
4. にほんのまちと だいがく	とても、あまり。〇〇さんのうちはおおきいですか。いいえ、あまりおおきくありません。い Adj／な Adj+の。N+の。これ、それ、あれ、どれ。は、が。どれが〇〇さんの N ですか。それです。これはだれの N ですか。〇〇さんのです。Adj+です、ありません。～は ～に あります／います。Nはどこですか。〇〇 (場所) ～です。
5. まいにちの せいかつ 1	～じ／～ふん。に。なんじにはじまりますか。〇〇にはじまります。を。N をよみます。る・う - V と不規則動詞。(Polite form 肯・否) いつも、たいてい、よく、ときどき。あまり、ぜんぜん+否。ごろ、ぐらい。
6. まいにちの せいかつ 2	で (手段)。から～まで。に (誰)。と (一緒に)。 V・Adj (Polite form) 過去形を使い、過去の出来事について話す。 どうでしたか。おもしろかったです。よくなかったです。おもしろくありませんでした。どのくらい。なんどぐらい。なんじかんぐらい。〇〇に X [かい、ど、じかんぐらい]。[は] と [も] → [には] と [にも] A には X があります。B にもあります。〇〇は A を～。でも、B はあまり～。A で～V ます。B では V ません。S1～から、S2。きょうは XX が、あしたは YY です。
7. すきなことと すきなもの	すき&きらい。XX がすきです。でも YY はすきじゃありません、すきじゃないです。すき／きらい - な Adj+N。 N - phrase のがすきです。 不規則動詞／る・う - V の辞書形。N や N。 〇〇の中で何がいちばんすきですか。A と B とどちらのほうがすきですか。A のほうが (B より) すきです。A も B もすきです、すきじゃありません。[～んです] のフォーメーション。Adj+です (Plain&Polite 現・否)
8. かいもの	V て形+ください。数 100→9,000。まい、本、ひき、さつ、円、かい (階)。[です] を使った省略表現。 [なにを V しましたか。どこにいますか。なんできましたか。] N です。

9. レストランと しょうたい	<p>～に します。～を おねがいします。</p> <p>〇〇に～ませんか。〇〇を～ましょうか／～ましょう。</p> <p>V-stemに いきます／きます／かえります。Q-word (何+か／どこ+か+に) ～か。(場所)で ～が あります。</p>
10.わたしの家族	<p>人、さい、番 (目)。て形+いる (現・過去・否)</p> <p>～は～が+Adj/Verb。 て形 (Adj/Verb)</p> <p>〇〇は目が、大きくて、～です。〇〇はやせていて、～です。 名詞修飾節。</p>
11.おもいで	<p>N/Adj+時 [子供の時 ひまな時に] 年・ひにち・～か月</p> <p>Vた ことがある。 Vたり、Vたり する。</p> <p>V/Adj+んです。V/Adj+からです。Plain form フォーメーション</p> <p>V (Plain 現・過去) Adj/the Copula+そう です。</p> <p>名詞修飾節 V (Plain 現・過去) /Adj (Plain 過去) 〇〇がよく行く／行った／すきだった N</p>
12.健康	<p>V 可能形。て form (Adj,V, the Copula)</p> <p>V-stem+～たい、～たがる</p> <p>Vたら どうですか／ほうが いいです V-stem+てもいい。</p>

『ICUの日本語』 Vol.1

1	N1はN2です、じゃありません、ですか。 N1のN2。 これ、それ、あれ、どれ。何、どれ、だれ。 Nも。
2	1～1000。1時～12時。半。曜日。円。…から…まで。 この、その、あの、どの。N1とN2。Nをください。 …でしょう。…でした。じゃありませんでした。
3	時間：分。きのう、きょう、昼、夜、今朝、今晚 …に（時間）。…で（場所 & 手段）。母音動詞、子音動詞。 N1はN2をVます。N1はN2へ／にVます。 NはVます。ません。ました。ませんでした。
4	時間：間 月、日（1日～31日）。 間接目的語：N1はN2にN3をVます。 いっしょにVませんか。Vましょう。 なにか、だれか、どこか、いつか。なにも、だれも、どこへも Vません。
5	（Nは） Adj い です。 （Nは） AN です。 （Nは） Adj く ありません。 （Nは） AN じゃありません。 Adjい+ANな N。 Adjい／ANな の は…です。 Nはどうですか。（Nは）どんなN1ですか。N1のN2 → N1の。 N1はN2が Adjい／AN です。 S1。（それに、でも）S2。
6	枚、台、人、さつ、こ、本、ひき、つ N1にN2が あります。います。ありました。いました。 N1にN2は ありません。いません。 N1のN2（そばに、前に） あります。 Nはありますか。 N1かN2（を、に、へ、は）…。 N1もN2も…。 S1が（but）、S2。 Nしか、…しません（いません）。
7	週間、か月、年間、回。いつも、たいてい、時々、あまり、ぜんぜん。 …に …。（1週間に5日、1年に2回…）〇〇は N／Vの が ANです。
8	N が Nに／ANに／Adjく になります。 （わたしは）Nが ほしいです／Nは ほしくありません（ないです）。 （わたしは）Vたいです／Vたくありません（ないです）。 （わたしは）NがNをVたいです。 Nは／を Vたくありません（ないです） Vる（ない）。Adjい（くない）。ANだ（じゃない）。Nだ（じゃない）。 S…（Vる、Adjい、ANな、Nな）の（ん）です。
9	（わたしが）Vましょう か。 Vて（ないで）ください。 ～に ～てほしい（です） 〇〇は Nの（上、下、中、横、間、後ろ、向こう、右、左）に あります。 S1…から、S2。
10	Adjかった。かったです。Adjく なかった。ありませんでした。なかったです。 ANだった。でした。じゃなかった。じゃありませんでした。 Nでした。じゃなかった。じゃありませんでした。 てform（Adjくて、Adjくなくて、ANで、ANじゃなくて、Nで、Nじゃなくて） Nで…（理由） Vて から …。 S でしょう。（同意を求める）

(資料2) 会話ボランティアに対するアンケート調査結果 (ほぼ原文通り)

1. 会話ボランティアに参加してよかったことは何ですか。

- いろいろな国のことが知ることができて (それも意外なことだったり) 良かったです。
- いつもはある程度ペラペラ日本語を話す外国人と話しているので本当に新鮮で勉強になった。
- 国外での日本のことを聞ける。
- 日本や日本語について見直すことができたこと。
- 日本語に注目して会話を楽しめたこと。
- 普段話さないような人たちと話せた。
- さまざまな国の良い所を知ることができてとても楽しかったです。
- いろいろな人に会えること。自分ももっといろいろ勉強しようと思う気持ち。
- 大きなテーマで? と思いましたが、学生さんの熱心さにいろいろと考えることができました。
- 自分が外国人の人に英語で話してみたことはあったが、その逆の体験ができて良かった。すごく一生懸命説明してくれているのがわかったし、私の話も真剣に聞いてくれた。
- 留学生と会話する機会があまりなかったので、日本語を通して交流することができて良かった。
- 留学生と日本語で話せる良い機会だった。
- いろんな人と会話できて楽しかった。自分が留学したら反対の立場になるんだろうと思うと、もっと何か協力できたらと思った。
- 日本と他国の習慣や常識の違いに気づいた。
- 難しい日本語を易しく説明する方法を学べた。
- 留学生の皆が本当に一生懸命笑顔で会話してくれる姿に出逢えたこと。
- 他の国の現在の社会問題などを生で訊くことが出来て、大変勉強になりました。
- 夏の間もボランティアの機会が持てたこと。
- たくさんの友達ができた。
- 学生の方がアクティブで、会話が弾んで楽しかったです。
- 海外の学生が日本について本気で興味を持ってくれていると分かって、嬉しかったです。
- 外国人の学生が考えていることを生に聞くことができた。
- 皆さん一生懸命で感動しました。
- 日本にいろいろな分野に興味を持っている外国人と話ができたこと。
- とても熱心に日本語を学び会話を通して、どんなことに興味を持って日本に勉強しに来られたのか少しでも知ることが出来て良かったと思います。これからの日本は世界の他国民と協働してゆく時代だと思います。日本の生活、文化、その他わずかでも私が学生さんにお手伝いできることは嬉しいことです。
- 外から見た日本を知ることができた。

- 普段話せない日本語学習生と話せたこと。
- 私たちが英語を勉強しているように、外国の人たちも日本語を勉強しているんだなと不思議に思いつつも嬉しくなりました。
- 外国人と会話することで自分の勉強にもなった。

2. 会話ボランティアに参加して、困ったこと（例：連絡方法、連絡の時期、授業で大変だったこと等）は何ですか。

- 特になし
- 連絡が直前に来すぎる。もっと早く知らせたい。申し込みの段階で回数の目処ぐらいは知らせて頂きたい。授業のトピックもわかっていれば調べられたかもしれないし。
- 応募の仕方が予定を立てづらい。決まるのが結構直前だから。
- いろいろな mail box に mail が来るので少し困りました。
- もう少し予定を早めにつめて頂きたかったです。
- 日程が決まるのが遅い。
- 参加表明をメールでしたのに当日名前がなかった。
- 日本語なのに説明するのはとても難しかったです。
- たとえば私の専攻を聞かれたときに、「教育」といっても分かってもらえない時の説明方法。
- Casual な会話で「行かない」が？をつけるか、つけないかによって、意味が全く違うのを説明するのが大変だった。
- 生徒さんの日本語をどのくらい正してあげたほうがいいのか、というのが難しいところだった。
- トピックについて自分が知らない。
- 自分の日本に対する知識の浅さ
- 英語を使わないで説明するのが難しかった。
- 日本語の表現・語彙不足を痛感した。
- 何を習っているのか理解できず、わからない用法・文型にしばしばぶつかった。
- 時間が短いのでその場で完結した会話にはなりにくく、体験学習で理解しました。学生さんにとっては緊張の連続であったかもしれませんが、私もなるべく緊張を和らげた話し方を考え勉強になりました。
- いつクラスに行けばいいのか分かりませんでした。ICU まで自宅から遠いので大変でした。
- いつ連絡が来るかわからないこと。
- 最初大まかにスケジュールを出したときの意図というか、どれ位大まかで良いのかわからなかったです。
- ある日本語の単語がわからないと言われた時に、他の日本語で説明することができなかった。
- 特にありませんが、本館が分からなくて迷子になりました。

3. そのほか、何かご意見／ご感想等がございましたらお書き下さい。

- すごく楽しかったです。国によっていろいろな考えもあってわかりました。
- 楽しかったです。
- また、機会があればよろしくお願い致します。
- 大変楽しく参加させて頂きました。ありがとうございました。
- また参加したいと思います。
- 皆さん日本語が上手で驚きました。
- 色々と詳細な情報が事前に欲しかった。
- もう少し予定を早めに詰めて頂きたかったです。
- もっと会話する機会を増やしてほしいです。
- また参加したい。逆に学生の方たちに英語を教えてもらう機会があるといいなと思う。